

## 鯖江型の教育で

### 豊かな人間性を(1)

♪夕焼けこやけの赤とんぼ  
負われて見たのはいつの日か

「童謡を歌うと、ビューッと特急で子どものじぶんに帰れるんです」。九月十五日、NHKのステージで歌った俳優の小沢昭一さんが、涙でうるむ目頭をおさえるシーンに、こみ上げる共感を覚えました。

人間の感性は幼少期に形成される。童謡を歌い、抱きしめながら育てていく母親の愛が、人への思いやりと協力の輪を芽生えさせます。

保育園から小、中学校、その頃の



2人の先生、輝く生徒の目

教育が人間形成の上で、極めて大切です。

「学校教育は始発駅ですよ」とは、田中榮一教育長の持論。子どもの人権を尊重する。ツメコミ型を避けて個性を伸ばす。考える力を養う。こんなときにどうしたら良いかの判断力を身につけさせることが大事と。

教育は学校だけでなく家庭と一緒にやって担い、そして企業や地域社会も役割分担を果たすもの。これが終着駅になるという。生涯教育の今、その認識が深まっています。それを目指す鯖江型教育が始まりました。

先生を増やそう。授業の仕方など質を高めよう。鯖江市の計画では一クラス三十人が理想だが、それには先生が足りない。理科や算数が苦手な子、理解の遅い子、不登校の子など、個別指導にも先生の増員が必要だ。その市独自の財源をどうするかといった課題と取り組みました。

どうしてもやり遂げようと、市役所の職員の給与等のカット協力で、予算捻出に成功しました。

スクールカウンセリングも始まり、福井大学や仁愛大学の学生ボランティアも応援。子どもだけでなく教育現場や保護者の悩み相談にも対応しています。